Ⅳ.部門の活動

2020 年 4 月～2021 年 3 月

医療安全管理室

課長 宮﨑俊子

1. 任務、役割

医療安全管理者の専従者を置き、院内医療安全管理組織の事務局として患者と職員の安全をまもるための様々な医療安全活動の推進を援助します。

(1)医療事故報告書の集約・集計・分析を行い、院内に発信します。

(2)医療事故再発防止において、部門や委員会など横断的に関わり、対策実施と有効性の評価の支援を行う。

(3)前年度の医療安全対策の課題から、次年度の目標設定や具体的手立て、研修計画などを作成し、医療安全委員会や部門リスクマネージャー会議を通して、院内の活動に展開していきます。

(4)毎週実施する医療安全対策評価カンファレンスにて、医療事故や医療安全相談事例の共有や、対策・再発防止策の検討と評価を行います。

2. 体制 1名

職種	
薬剤師	1名

3. 活動と実績等

年度初めに設定した目標計画に沿って、安全対策や職員教育を、医療安全委員会や部門リスクマネージャー会議を通して実施しました。地域の医療機関と連携して実施する医療安全の相互評価は、今年度実施することが出来ませんでした。

1年間に報告された「ひやりはっと事故報告」(インシデント・アクシデント報告)は、2,199件ありました。全ての報告書に対し修正処置が実施されその評価と承認が滞りなく行われるように、報告部門への声かけや援助を行いました。

日々のラウンドで事故発生部門への聞き取りや現場の確認、その後の対応などについて確認しました。

発生した医療事故のデータ集約を行い、医療安全対策評価カンファレンスや医療安全委員会へ情報を提供し、対策の必要性や内容について協議しました。

是正処置が必要な事例において、処置が滞ることなく実施できるように、是正の進捗に合わせてヒヤリングを実施しました。

10月に発生した事故に対し、院内事故調査委員会を開催し、事例の調査分析を行いました。

感染管理室

部責主任 吉田智恵子

1. 任務、役割

感染管理認定看護師の専従者を置き、院内感染防止対策組織の事務局として、院内の感染予防と感染防止対策の推進を援助します。

2. 体制 2名

職種	
看護師	2名

3. 活動と実績等

(1)院内感染防止対策組織の一員として、委員会・チームの連携に努めました。

(2)医療関連感染サーベイランスの結果を感染対策委員会で共有し、必要に応じて現場への介入を行いました。

(3)衛生管理者と連携し、職業感染の予防・経過観察が必要な職員に対するフォローを行いました。

(4)法人内における感染対策に関連する相談の対応、問題解決のための介入・支援を行いました。

(5)法人内で発生したアウトブレイクに介入し、現場の支援・教育を行いました。

(6)周辺の医療・介護施設や行政と連携し、地域の感染対策に努めました。

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1)学術・研究等の発表(Ⅵ-4頁、Ⅵ-6項参照)

演題名
「新型コロナウイルス感染症」 医療従事者の濃厚接触と曝露のリスク
総合病院看護職の衛生観念と手指衛生と手指衛生実践の関連

医療情報管理室

課長　野田邦子

1. 任務、役割

(1)医療記録・医療情報の管理。
(2)医療の質向上につながる質指標測定・各種統計作成。
(3)診療支援および学術研究活動支援
3つの業務を主として担いながら、クオリティマネジメントセンター(以下「QMセンター」)事務局として、医療の質改善のためのPDCAサイクルが動くための支援機能を果たします。

2. 体制　10名

常勤職員　　7名
非常勤職員　　3名　(注1)

(注1)1名は医師アシスト業務として外科系学会が運営するNCDおよび日本整形外科学会が運営するJOANRへの手術症例登録録を行っています。

■認定資格

診療情報管理士	6名
医療情報技師	1名
院内がん登録実務中級認定者	1名
院内がん登録実務初級認定者	2名
医療クオリティマネージャー(日本医療機能評価機構)	1名

3. 概要、特徴、特色

(1)過去記録の取り寄せは昨年と同程度でした。B型肝炎、障害年金申請等のための初診時からの記録が必要なケースが一定数発生しています。医療記録の質管理に関しては、記録指導者会議を開催し各職種の記録改善を支援しました。記録監査は、カンファレンス記録、病状説明の記録、診療情報提供書について行いフィードバックしました。個人情報の適切な取り扱い(基本事項、事例別解説)に関するｅラーニングを実施しました(履修率医師49%、医師以外100%)。
(2)新型コロナウィルス感染症流行により、「記録の読み方講座」は中止とし、マイかるての利用者の活用状況を調査し、寄せられた活用方法をお知らせすることで普及を図りました。しかし、新規登録は大きく減少しました。
(3)医療の質改善の指標(QI)
全面的に見直し改定しました。部門責任者会議で測定値をもとにグループ討議し改善策の提案を行いました。第3回マネジメントレビューでは、QIを次年度目標に位置づける提起をしました。測定をサーベイし、3回のマネジメントレビューにインプット情報として提供しました。病棟会議に参加し質目標に関わるデータの提供を行い、改善を支援しました。

(4)実績(2020年1月～12月)

過去記録取り寄せ・貸出	83件(前年比102%)
病歴登録管理	7,396件(前年比92.4%)
退院時要約管理	7日以内完成78% 14日以内完成94%
死因登録	369件 (入院300、外来58、在宅11)
診療情報検索・調査	51件(依頼29、学会等22)
院内がん登録	750件(前年比86.6%)
NCD登録	959件(外科702、乳腺118、病理11、胃癌128)
JOANR登録	1,000件
ニュース発行	4回(医療記録関連、QMセンター発)
カルテ開示	102件(申請72、法照会30)
マイかるて新規登録	160件(前年比29%)
マイかるて活用アンケート	回答19人

(5)クオリティマネジメントセンター(Ⅴ-3～4頁参照)

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1)外部研修
①がん登録初級実務研修　1名(12月)
②中堅職員マネジメント研修　2名(7月、10月)
③通信講座　3名受講・2名修了
(2)部門内学習
①症例を読み取る(6－3月計9回)
②コーディングの基本(10－2月計9回)

5. 今後の展望・次年度に向けて

QMセンター事務局としてデータを活用した部門・チームの質改善活動を促進し、チーム医療の質の証としての記録の改善を進めます。また2病院化・電子カルテ更新に向けて医療記録の整理・業務の効率化を進めます。

看護部

看護部長　小野寺由美子

2020年度の目標と活動報告

1.職員一人一人のやりがいや成長を大切に、より効率的で標準的な質の高い医療サービスを提供する。

昨年度から改定に取り組んできた各部門のクリニカルラダーを活用した育成を継続して進めてきました。中途入職者に対しての相互評価、フォローの仕組みづくりにつながり、今後職員定着のためのツールとして進化させていきます。病院のリニューアルの向けた看護管理後継者の育成は看護部の課題であるため、マネジメントラダーの作成に取り組むことの必要性が確認されました。コロナ禍での職員育成は制限もありましたが、新しい集合研修の方法やプログラムの見直しを進め、OJT を強化しながら新人職員育成のスタイルを作ってきました。

2. 患者を労働と生活の視点から捉える力量が向上し、医療/看護制度の問題を考えることができる。

SDHの視点を持って多職種でのカンファレンスを開催し、病棟での症例から多くの学びが共有されました。民医連綱領の学習をｅラーニングで実施、「民医連の看護とその基本となるもの」に基づいた学習を担当看護長が中心となり、各部門から中堅職員が参加し実施しました。その学びが、キャリア1研修の質にも反映されてきた実感です。

3. 病院リニューアルを成功させるために、黒字経営を維持する。

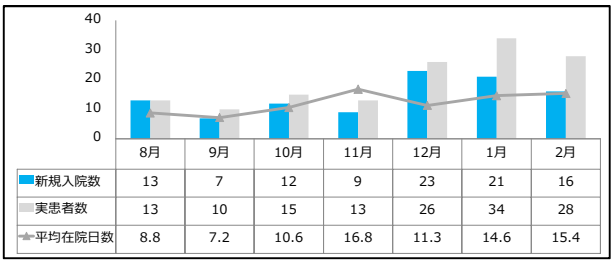
COVID-19受け入れ病棟12床の継続で、年度予算からの乖離は大きかった。内科病棟減に伴い、全病棟で診療科別にこだわらず患者受け入れを行う協力体制を取り、臨んできました。

2病院化に向けた建設課題に、外来部門、病棟部門、手術部門、コミュニケーション部門に分かれ、担当管理と現場看護長とで協働しながら進めてきました。医師の診療科構想と合わせた計画の追及が今後の課題となります。

4. 新型コロナウイルス感染者受け入れへの対応

感染拡大に伴い、2020年4月から発熱外来、病院入り口でのトリアージを開始し、フェーズに合わせて修正しながら対応してきました。また、帰国者・接触者外来の体制を整え、保健所とのスムーズな連携を図ってきました。2020年4月6日からCOVID-19患者受け入れ病棟を開設しました。当初はまず緩和ケア病棟を閉鎖し受け入れ病棟に転換、その後8月からはC5病棟が受け入れ病棟となり、診療科の再編、人事異動、患者の転科、物品準備、ゾーニングなど、ICD・ICNのリーダーシップのもと急ピッチで準備をすすめました。中等症患者を受けるためにスペシャリスト（集中ケア認定看護師/慢性呼吸不全認定看護師）の配置を含めたメンバー構成を考慮し、スタッフの暴露予防と患者の安全を両立させることを目指しました。フェーズが上がった12月から、ベッド数が8床から12床に増床となり、要介護者や重症者も発生しました。第3波では、中等症から重症化し転送になるケースや、重症患者のベッドがひっ迫したため容態が悪化しても転送ができず、気管挿管に至るケース、当院で亡くなるケースも体験しました。 また、COVID-19患者受け入れ病棟では、当初他部門から業務の実態が見えにくく、院内での格差や偏見が発生することがありました。看護部全体でサポートするメッセージを寄せつつ、従事する職員のストレス対応として、「日本赤十字社のメンタルサポートガイド」を参考に思いの表出と共有の時間をつくり、効果がみられました。

【C5病棟の受け入れ状況】



	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
新規入院数	13	7	12	9	23	21	16
実患者数	13	10	15	13	26	34	28
平均在院日数	8.8	7.2	10.6	16.8	11.3	14.6	15.4

CNICN（感染管理認定看護師）の活躍

2020年4月から、擬似症患者、COVID-19陽性が続出し、錯綜する情報の中での情報共有はひじょうに困難でした。手指消毒剤や個人防護具の供給が不安定で、製品保証が不明確な支援品に頼らざるを得ない中、標準予防策と経路別予防策の周知と徹底を各部門の状況に合わせたCNICNによる継続的な指導と声かけが感染拡大防止のためには重要でした。また、接触状況の迅速な調査と判断を行うことで、大きなクラスターを発生させることなく経過しました。

外来看護科Ⅰ

看護長　吉田　暁子

1. 任務、役割

内科急患・ER・整形外科・外科・眼科・耳鼻科・皮膚科・泌尿器科・内視鏡・放射線検査・自己血採血外来・化学療法室を担っています。また、2020年度は新型コロナ感染症の流行があり、発熱外来を開始しました。感染対策を行い、外来診療がスムーズにいくよう、各診療科で連携しています。

2. 体制　63 名

職種		
看護師	45名	
助産師	1名	（小児救急認定）
准看護師	9名	
看護助手	5名	
視能訓練士	3名	

3. 活動と実績等

(1)新型コロナ感染症の流行により、午前は発熱外来、午後は保健所の依頼を受ける帰国者・接触者外来を開始しました。
(2)内視鏡やレントゲン関係の、緊急検査に対応しています。
(3)各診療科では、感染対策を実施しながら、新型コロナ感染症流行時も通常の診療を行いました。

＜総括＞

(1)救急では前年度と変わらない台数の救急車を受け入れ、入院へつなげました。
(2)発熱トリアージ加算をもれなく取ることができるよう、看護師の育成に取り組みました。
(3)災害支援の教育を受けた看護師を中心に、部門内でトリアージ訓練を実施し、災害時の対応できるようにしました。
(4)内科急患でのがん告知に立ち会い、患者・家族の思いを聞き取り、他部署との連携し患者支援を行いました。
(5)新型コロナ感染症を含め、多くの感染症患者へ対応し、感染対策方法や検体採取方法の改善に取り組みました。

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1)学術・研究等の発表(Ⅵ-4頁、Ⅵ-6頁参照)

演題名
外来看護におけるCOVID-19感染症対策の取り組み
多職種倫理カンファレンス実施における医療従事者の倫理に与える影響

外来看護科Ⅱ

看護長　　栢森恵子

1. 任務、役割

専門外来(慢性疾患)・予約内科と、健康増進センター、精神科デイケアを担っています。

専門外来・予約内科は、糖尿病科、消化器内科、循環器内科、呼吸器内科、神経内科、精神科、脳神経外科、神経内科、甲状腺科、腎臓内科、血液内科があり、慢性期の在宅療養指導から終末期の支援を行っています。

健康増進センターでは、健診者の保健指導や、2次健診受診の支援を行っています。

精神科デイケアでは、利用者の社会生活をサポートするプログラムや環境作りと、生活指導、服薬指導、受診支援等を行っています。

2. 体制　25 名

職種		
保健師	15名	
看護師	9名	
准看護師	1名	
助産師	(3名)	重複
日本糖尿病療養指導士	3名	
肝炎コーディネーター	1名	

3. 総括

(1)専門外来・予約内科における慢性期から終末期の看護活動

①逆紹介の取り組みとして、医師別に対象者をピックアップし47名の逆紹介を行った。当院継続の希望がある方が多いが、急性期病院の専門外来機能としての役割を果たすために、次年度は科毎に逆紹介基準を決めて取り組んでいきます。

②未来院・中断管理の取り組みとして、中断者の中断理由の聞き取りを行いました。中断理由は仕事の都合が一番多かったです。中断した患者の中には、状態を悪くし入院になる症例もあるため、受診につなげる支援、中断理由の聞き取りによりアセスメントを行い介入していく必要性が明らかになりました。

③看護外来の質向上にむけ、チーム活動を実施しています。(消化器、呼吸器、糖尿病、精神科)。今年度は特に新型コロナウイルス感染症対策のため、看護外来、検査・入院の手順の変更があり、変更に応じ、手順書やクリパスの改定や職員教育が行われました。

看護外来	糖尿病合併症管理料算定者数	247名
	フットケア(爪切り)実施者数	262名
	インスリン手技チェック実施者数	446名
	誕生月神経障害チェック実施者数 (2020年4月～2020年12月)	330名
	透析予防指導管理料算定者数 (2020年4月～2020年12月)	199名
糖尿病教室(はじめ外来)参加開始者数 (2020年4月～12月)		13名

(2)健康増進センターにおける保健予防活動

①後期高齢者健診におけるフレイル予防のための介入を開始した。後期高齢者健診の問診から、フレイルの徴候にあてはまった場合、フレイル予防についてパンフレットをお渡し・説明をしました。2020年6月1日～2021年3月31日に健診を受診した後期高齢者1,321名中253名に介入が行いました。2021年は後期高齢者問診を前年度と比較し、必要な介入を行っていく予定です。

②特定保健指導は、開始者数126名、最終評価者数114 名でした。特定保健指導の質の統一にむけ、技術チェックリストを作成し、保健指導者の育成を行いました。

(3))精神科デイケアにおける看護活動

①COVID－19感染症流行による、集団感染予防のため、体温測定・体調確認や、食事の環境改善や活動前後の手洗・掃除の取り決めを行い、利用者に徹底しました。

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1)学術・研究等の発表(Ⅵ-4頁、Ⅵ-6頁参照)

演題名
後期高齢者健診におけるフレイル予防のための介入の取り組み
専門外来の逆紹介の取り組みについて
コロナ禍における外来通院の中断理由
内科外来受診中のアルコール多飲者に対してアルコール依存症予防支援(SBIRTS)を導入した症例報告

C2病棟看護科

看護長 武 智子

1. 任務、役割

C2病棟は51床です。消化器内科疾患と呼吸器内科を中心に医療の提供を行なっています。食道から大腸、膵胆肝系の侵襲の高い検査や膵石治療にも取り組んでいます。また、呼吸器疾患の患者様への酸素評価や在宅呼吸器の指導を行っております。悪性疾患などの患者様も多く、化学療法に移行する患者様、また緩和ケアへ繋ぐ役割も担い、認定看護師の協力を得ながら、疼痛緩和やQOLの向上、患者様・ご家族の方の精神的援助が出来るように日々努めています。独居高齢者や老老介護への介入も増えているため、入院時から多職種で退院支援に取り組んでいます。

2. 体制 39名

職種	
保健師	6名
看護師	33名

3. 概要、特徴、特色

(1)総括

①患者や看護師にとって安心・安全な医療を提供しました。

②消化器疾患、呼吸器疾患を中心とした治療・看護を統一して行い、スムーズかつ安全な医療と看護を提供しました。

③HPHに取り組み、ヘルスプロモーション活動の推進を行いました。

(2)実績

新入院患者数	125.8人
入院延べ患者数	1.206人
平均在院日数	10.1日
病床利用率	76.5%

4. 今後の展望・次年度に向けて

(1)各診療科における検査・治療をより多くの患者様に提供できるよう職員の知識と対応力の向上を目指します。

(2)がん患者ががんと診断されたときから患者様の意向に沿いながら緩和ケアが受けられるように支援します。

(3)各診療科のクリニカルパスの運用により、適宜、見直し修正をおこないながら標準的医療を維持し、患者様にわかりやすい説明を行います。

(4)地域へ退院される患者様に対し、情報を提供し、継続した支援ができるようにします。

C3病棟看護科（産婦人科）

看護長　小峰将子

1. 任務、役割

病床数40床。1983年の産婦人科開局以来、『地域が産み・育てる』をスローガンに地域に根ざした活動を目標に掲げ、活動を展開してきました。

産婦人科外来・病棟・小児科との連携で、妊娠・出産・育児や婦人科手術前後の期間を含め、女性とその家族の一生を一貫してサポートしています。また、地域との連携も密に行っているため、地域のサポートも安心して受けていただくことができています。

今後も安心して地域で過ごすことができるよう切れ目ない支援を継続していきます。

2. 体制　31 名

職種		
助産師	25名	うち保健師有資格者9名
看護師	4名	
准看護師	1名	
看護サポート	1名	

資格	人数
日本助産評価機構認定　アドバンス助産師	3名
NCPR（一次 B または専門 A）	23名
NCPR 専門コースインストラクター	1名
ALSO プロバイダー	3名
J-CIMELS	1名
IBCLC	1名
ICLS	5名
災害支援ナース	1名

3. 活動と実績等

(1) 実績

新規入院患者数	1,083人
転入患者	47人
入院延べ患者数	6,971人
1 日あたり患者数	19.2人
平均在院日数	7.3日
平均占床率	55.4%
分娩件数	403件
帝王切開	94件
婦人科手術件数	281件
他科受け入れ件数	215件

(2) 総括

①各教室はコロナ禍において中止していましたが、産前教育のうぶ声学校のみ、1回コースにスタイルを変更して再開することができました。

②面会や立ち会い出産は中止となりましたが、感染防止対策を徹底し、スタッフが寄り添いながら、分娩を継続することができました。

③情勢に合わせ、中止と再開を繰り返しながらも感染防止対策を徹底し、助産学校 2 校、看護学校 4 校の実習受け入れを行い、医療従事者の人材育成に貢献することができました。

④病棟編成に伴い、EMRを中心とした内科、整形外科の術前後、眼科、耳鼻科などの受け入れを行い、病床運営に貢献することができました。

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

埼玉県看護協会　助産師職能委員会に参加。

C3病棟看護科(小児科)

主任 木賊敦子

1. 任務、役割

C3小児科は、小児科外来と病棟を担当しています。新生児から中学3年生までの小児内科疾患の患者様を中心に医療の提供を行っています。病棟では急性期疾患の他、食物経口負荷試験などの検査入院も行っています。また、小児の整形外科や耳鼻科の手術患者様の受け入れや、成人のSAS入院の受け入れも継続しています。

小児科では、地域に選ばれる小児科を目指し、妊娠期から継続した子育て支援が出来るように日々努めています。

2. 体制 13名

職種	
看護師	10名(うち保健師有資格者1名)
助産師	1名(保健師有資格)
准看護師	1名
病棟保育士	1名

3. 概要、特徴、特色

(1)総括

①地域に選ばれる小児科を目指し、慢性疾患、長期に療養を必要とする患者様のフォローに力を入れてきました。今年度は病棟編成もあり、内科の検査入院(EMR)、日帰りの胃瘻交換や成人の耳鼻科の手術患者様や点滴加療の患者様、術前の血糖コントロール入院も積極的に受け入れ占床率は前年度を上回る結果となっています。

今年度小児科に異動したスタッフも多くいたため、外来のパートスタッフを中心に外来の備品の整理や、長年使用していたパンフレットの見直しなども行うことができました。

②今年度もHPH・SDHの視点で地域医療活動を行い、チーム医療の質の向上にも努めました。小児虐待対策としてZOOMを使用した『巣ごもりカフェ』なども新たに開催できており、地域の方々との交流も行っています。さらに、小児科ではひらがなの読み書きが苦手なお子さんへの『学習支援』も行っており、毎月継続した支援が行えています。

(2)実績

①新入院患者数	526人
②入院延べ人数	1,440人
③平均在院日数	5.17日
④平均占床率	44.6%
⑤成人患者	332人
⑥手術件数	94件

4. 今後の展望・次年度に向けて

(1)コロナ禍でも継続して、育児支援が出来る方法を検討し、切れ目ない支援が出来るように努めていきます。

(2)現スタッフを中心に、学習支援が行えるスタッフを育成していきます。

(3)紹介患者様や救急依頼、他科入院の受け入れを積極的に行い、病床利用率増加に努めていきます。多職種と連携し、質の高い医療を提供していきます。

C4病棟看護科

看護長　英岡和香子

1. 任務、役割

癌から生じる痛みをはじめとする体のつらい症状や、患者様と御家族が病気とともに生きることの心のつらさが和らぐよう、多職種チームで連携し支援しています。残された時間をその人らしく過ごしたい場所で過ごせるように、症状が軽快されたら在宅調整の支援を行ったり、患者様とご家族の要望を叶えられるよう支援を行っています。

2. 体制　17 名

職種	
看護師	16名
緩和ケア認定看護師	1名

3. 概要、特徴、特色

(1)実績

新入院患者数	183人
転入院患者数	109人
退院患者数	146人
死亡退院数	133人
入院のべ患者数	428.1人
1日あたりの患者数	11.7人
平均在院日数	16.0日
平均占床率	52.1%

(2)特徴

地域から求められる役割として、緊急入院を積極的に受け入れてきました。地域連携を円滑にするために、地域連携カンファレンスを実施しつながりを深めています。今年度は新型コロナによる病棟編成により内科患者様の受け入れも行いました。

(3)特色

次年度より緩和ケア医が常勤として着任いたします。より専門性のある緩和ケアを目指していきたいと考えています。今年度からリハビリスタッフが常駐されるようになりました。患者様の日常に寄り添い、その人らしさを引き出す支援に努めます。病棟ではカンファレンスを重ねながら患者様にとって必要なケアを多職種とともに日々考えています。コロナ禍の中で患者様やご家族にとっての最善を常に考え続けケアにあたっています。

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1)学術・研究等の発表(Ⅵ-4頁、Ⅵ-6頁参照)

演題名
途切れない緩和ケアの提供～コロナ禍における他部門・地域連携～
緩和ケア病棟における退院後訪問の実際
ラウンドカンファレンスから出来た様々な安全への取り組み
スタッフステーション内に患者を滞在させることに関する病棟看護師・介護士の認識の実態調査
緩和ケア病棟でのリハビリの取り組み
PNS導入の効果　～緩和ケア病棟に即したPNS～
新型コロナウイルス感染症流行に伴う緩和ケア病棟の変遷
ナースステーション内に患者を滞在させることに関する病棟看護師・介護士の実態調査

5. 今後の展望・次年度に向けて

(1)グリーフケアの充実(遺族会・遺族へのアンケートの調査)を図ります。

(2)在宅調整力を高めるため退院後訪問の充実を図ります。

(3)班会を利用したACPを広める活動の実施を図ります。

C5病棟看護科

看護長 大森 有紀

1. 任務、役割

病床数50床。主に肺癌・気管支喘息・肺炎・肺気腫・慢性呼吸不全などの呼吸器疾患患者様と、大腸ポリープ・糖尿病・脳梗塞・尿路感染症等の内科患者様が対象で、肺癌の化学療法、肺炎治療、HOT導入、気管支鏡検査、糖尿病コントロール、大腸内視鏡検査等を行っていました。

2020年8月、新型コロナウィルス感染症患者の増加を受けて病床数8床の感染症病棟となりました。12月からはフェーズが上がり、12床に増床しました。現在軽症～中等症患者の受け入れを開始しています。埼玉県からの要請を受け、川口市のみでなく市外からの入院要請にも迅速に対応できるよう努めています。

2. 体制 23名

職種	
保健師	4名
看護師	17名
看護助手	2名

3. 概要、特徴、特色

(1)総括

2020年4～7月:呼吸器チーム、DMチーム、化学療法・緩和ケアチームの活動を通して質の向上に努めました。高齢の方が多く、退院調整力と、再入院予防に向けた指導力の強化に向け学習し、情報収集・記録ができるようになりました。カンファレンスなどの見直し・改善を通して多職種連携を促進しました。認知症や終末期における身体抑制・代替栄養・延命治療などの倫理的課題に対してカンファレンスを多職種で行いました。

2020年8～2021年3月:新型コロナウィルス感染症患者の受け入れ病棟として、軽症～中等量患者の対応を行いました。当初、治療やケアに関する情報が少なく、周囲の病院とも共有する機会が全く無かったため、職員が情報を持ち寄り、知識と対応力の向上に努めました。11月からは高齢者患者が増え、認知症ケアや転倒転落事故の予防が重要課題となりました。第3波では、周囲の重症患者受け入れ病床率の増加により、患者が重症化しても転院が困難なため、当科での挿管と人工呼吸器管理までの重症化対応を実施しました。また、当院の救急外来からの発生に伴い、産科、整形外科、耳鼻科、泌尿器科など新型コロナウィルス感染症のみでなく様々な症状を抱えた方が入院しました。家族が面会できず、不安の声が多く聞かれたため、電話での現状報告やオンライン面会をできる限りで行いました。

職員の感染対策は、休憩時間や休日にも継続し、患者対応の場面を認定看護師が定期的にチェックしながら持続的に行えるようにしました。病棟編成に伴って精神的負担が増大しましたが、確実な感染対策実施にむけて訓練を行い、ストレス表出の機会をつくることによってひとつずつ乗り越えました。

(2)実績

①2020年4～7月

新入院患者数	385人
入院延べ患者数	4,550人
平均在院日数	11.4日
病床利用率	74.5%
DPCⅠ・Ⅱ期間内の退院平均	73.9%
医療看護必要度	平均26.6%

②2020年8～2021年3月

新入院患者数	128人
入院延べ患者数	1,712人
平均在院日数	11.5日

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

・埼玉県主催 重症対応講習会参加

5. 今後の展望・次年度に向けて

(1)長引く陽性患者の発生に迅速に対応できるよう、チーム力を鍛えます。

(2)感染症対策を取りながら患者の精神的不安に寄り添えるよう関わり方の工夫をしていきます。

(3)重症化サインをいち早く見つけ、必要なケアに繋げられるよう対応力を上げていきます。

(4)患者への緩和ケア、家族ケアを行い、感染症による苦痛を取り除くための取り組みを行います。

(5)働く職員の精神的ストレスを表出し、感染症と精神的負担に関する正しい知識をもって仕事を続けられるようにします。

D2病棟看護科

看護長　浅香眞由美

1. 任務、役割

病床数57床です。変形性関節症や脊椎、骨折や外傷などの疾患が多く、手術や急性期の治療・処置を必要とする患者様の受け入れをしています。また、周手術期看護を中心とした病棟業務を行っています。

2. 体制　38 名

職種	
保健師	1人名
看護師	34名
看護助手	3名

3. 活動と実績等

新入院患者数	平均82.3人
延べ入院患者数	16,390人
平均在院日数	16.7日
病床利用率	78.8%
手術件数	977件
死亡数	0件

(1)平均在院日数17.5日、月平均入院数78.3人となりました。老人保健施設みぬまとの連携会議を開催し、入所へのスムーズな受け入れ方法を確立しました。他施設への紹介も促進し、多くの新患を受け入れました。また他職種参加のカンファレンスを活用し在院日数短縮につながりました。
(2)電子パスの新規作成と見直しを実施しました。
(3)ディンクルを活用し褥瘡改善率の改善に努力しました。マットの学習会をしてマットの変更を行い、セーフマスターへのリスク評価入力などを徹底しました。
(4)整形外科での入院患者の多い疾患をもとに疾患チームで活動しています。学習会企画やパス見直し、手順書の見直しを行いました。

4. 今後の展望・次年度に向けて

(1)整形外科病棟の周手術期看護のレベルアップを図ります。
(2)多職種で入院時から関わりを持ち、患者様の意向に沿った退院支援を行います。
(3)さらなる在院日数の短縮と入院数の確保を行います。

D3病棟看護科

看護長　大西美希

1. 任務、役割

(1)病棟数は55床です。
(2)消化器悪性疾患(消化器がん・呼吸器がん・乳がん等)や良性疾患(胆石・虫垂炎・腸閉塞・鼠径ヘルニア等)の手術療法を受ける患者様の看護に取り組んでいます。
(3)化学療法室と連携して術前・術後の化学療法を受ける患者様を受け入れています。
(4)整形外科疾患(上肢下肢の骨折・大腿骨頚部骨折・脊椎疾患)の手術療法を受ける患者様の看護に取り組んでいます。

2. 体制　35 名

職種		
保健師	4名	
助産師	1名	
看護師	25名	
認定看護師	2名	(がん化学療法、癌性疼痛看護)
看護助手	3名	

3. 概要、特徴、特色

(1)実績

入院患者数	1,388人	(115. 7人/月)
入院延人数	14,246人	
平均在院日数	10.7日	
病床利用率(占床率)	78.4%	
手術件数	786件	(緊急130件)
※外科系腹腔鏡下手術の割合:44.50%		

(2)総括

①医師やメディカルスタッフと協力して入院患者の医療・看護に取り組みました。
②がん医療においては、がん関連認定看護師を中心に、外科、乳腺外科のキャンサーボードを定期開催し、多職種での情報交換・共有により切れ目のなく取り組みました。
③整形外科疾患の患者を昨年度より多く受け入れ、周手術期・退院指導を含めた医療・看護に取り組みました。
(整形外科入院数228件)

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

・第18回日本臨床腫瘍学会学術集会参加
・第58回日本癌治療学会学術集会参加

5. 今後の展望・次年度に向けて

(1)高難易度の手術に対応できる周術期看護のスキルアップを目指します。
(2)多職種と協働し、術前から退院に向けた患者教育の充実を目指します。
(3)クリニカルパスの評価・修正を進め、適切な治療・看護を提供します。

D4病棟・HCU看護科

看護長 佐藤笑美子

1. 任務、役割

D4病棟はHCU4床と、循環器疾患・糖尿病・腎臓病・脳梗塞や脳出血などの血管障害の患者様が入院されている一般病床46床の病棟です。他職種で患者様に関わる業務体制を整え、質の向上をめざしています。また、医師の初期研修の場として、医師・看護師がともに学び合う環境作りを目標に活動しています。

2. 体制 40名

職種	
保健師	6名
看護師	34名

3. 活動と実績等

HCU病棟として、消化管穿孔など外科や骨折などの整形外科の術後で重症管理が必要な患者様の受け入れを行い、術後管理が適切に行えるように業務の基準を作成しました。重症治療管理のほか、身体的ケア・精神的ケア、家族ケアの実施、早期のリハビリ介入をし、身寄りのない患者様の治療方針決定を多職種で行い、HCU退出後の退院支援につなげました。

また、高齢者の多い、一般病床では患者様・家族の意向を伺いながら、病気や看護とどのように向き合うのか、最期はどこで迎えるかを考えていただけるように、また、感染対策のなかでの面会禁止で会うことのできない家族が病前・病中・病後の患者様をイメージできるように入院時から関わりを持ってきました。

慢性疾患を抱えた患者様には、生活状況を確認し、病気を理解したうえで日常生活を送ることができるように疾患別パンフレットを用いて指導を行いました。

実績(月平均)

入院患者数	91件/月
平均在院日数(一般)	10.9日/月
病床利用率(一般)	92.5%/月
ペースメーカー移植術	20件
心臓カテーテル検査	119件
内シャント造設術	55件
経皮的シャント拡張術・血栓除去術	106件

D5病棟看護科

看護長　福田友美

1. 任務、役割

脳血管疾患、運動器疾患、急性期治療後の廃用症候群の患者を中心に、回復期リハビリテーションを提供し、障害受容から地域社会復帰に向けた支援を行っています。

2. 体制　36 名

職種	
医師	2名
保健師	1名
看護師	22名
介護福祉士	10名
事務総合職	1名

※上記以外

社会福祉士2名、薬剤師1名、管理栄養士1名

理学療法士12名、作業療法士11、言語聴覚士6名（兼務）、歯科衛生士2名（兼務）

3. 概要、特徴、特色

回復期リハビリテーション病棟入院料1を算定しています。チーム医療の展開により、患者、家族が安心して住み慣れた環境に戻れるよう、退院支援を行い、在宅復帰率が高い実績があります。

(1)実績

入院患者数	293人
退院転出数	323人
平均在院日数	55．4日
病床稼動率	94.2%
在宅復帰率	90%
重症患者回復率	72．5%
アウトカム評価（実績指数）	51．28

4. 今後の展望・次年度に向けて

コロナ禍で行事や家族介護指導等が十分にできない状況になり、次年度は、感染対策を行いながら回復期リハビリ病棟らしさの再構築が求められていると思います。患者満足度の向上にむけてチーム医療を展開していきたいです。

透析看護科

看護長　砂川千恵子

1. 任務、役割

透析室では入院透析と外来維持透析を行なっています。入院は糖尿病外来や腎外来からの予定導入、症状悪化による緊急透析、他施設の維持患者で入院が必要な場合の透析に対応しています。維持患者には合併症予防のため、食事・水分管理や日常生活に対しての患者指導を行なっています。シャント不全のシャント拡張術も対応しています。

2. 体制　17 名

職種	
看護師	10名
准看護師	2名
臨床工学士	4名
事務総合職	1名

3. 活動と実績等

(1)特徴

①急性期および透析導入病院としての役割として、緊急透析患者の対応、糖尿病外来・腎外来と連携し、透析導入患者への生活指導を実践しています。

②エコー下での穿刺の技術の習得や、カテーテル留置患者へのケアなど、安全で安心な透析治療を提供しています。

(2)実績

年間透析件数	1,144件
新規透析導入数	44人
外来透析管理患者数延べ	755人
入院透析管理患者数延べ	393人
シャント拡張術	122件
内シャント造設術	61件

4. 今後の展望・次年度に向けて

(1)透析看護外来で糖尿病や慢性腎臓病の患者・家族への指導を行い、透析導入病院としての役割を発揮していきます。

(2)臨床工学技師や栄養士など多職種と連携し、維持透析患者への生活指導を実施し、安定した維持透析治療や看護を提供していきます。

(3)シャントの管理や、穿刺（エコー下穿刺含む）の技術の向上を目指し、患者への苦痛の軽減に努めます。

(4)防災訓練を実施し、災害発生時や緊急時に対応していきます。

手術看護科

看護長 熊木直美

1. 任務、役割

手術室では周術期における患者の安全を守り、手術が円滑に遂行できるよう専門的知識や技術を習得し提供しています。患者様やご家族にとって手術への不安は計り知れないものがあり、少しでも安心して手術に望めるよう術前の外来から寄り添った看護を行っています。

また、週一回のペイン外来では疼痛に苦しむ患者様の訴えを親身に聞き取り、1人1人の患者様の生活スタイルに合った治療や工夫を医師と共に考え提供しています。

2. 体制 39名

職種	
手術看護実践指導看護師	1名
保健師	2名
看護師	29名
准看護師	1名
看護助手	5名
事務総合職	1名

3. 活動と実績等

コロナ禍で、患者様や働く医療者により安全な環境で手術が行えるよう、必要時臨時会議を開き検討しながら進めてきました。業務手順もコロナ感染疑似症や未検査の患者様に対応できるよう変更し、外来や病棟の協力を得て蔓延することなく行えています。手術件数は近隣病院がコロナ感染症により閉鎖されたことで増加した月や、逆に院内で病棟が閉鎖となり減少した月などさまざまでしたが、ほぼ前年度件数を維持することができました。

(1)手術実績(前年比)

各科手術件数	2,704件(98.9%)
	外科693件、整形外科1,482件、 産婦人科285件、透析科76件、 耳鼻咽喉科63件、眼科158件
全身麻酔手術	2,051件(99.2%)
術前訪問件数	1,772件/外来手術は対象外
術中訪問件数	177件/3時間以上の外科手術対象
術後訪問件数	1,842件

(2)ペイン外来実績

	2018年	2019年	2020年
外来件数	951件	958件	1,005件

ペイン外来では三叉神経ブロックや腹腔神経叢ブロックなど難易度の高い処置も増え、介助手順や処置後の観察点など病棟看護師とも連携し学習してきました。

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1)学術・研究等の発表(VI-4頁、VI-6頁参照)

演題名
指導体制をマンツーマン方式からチーム制にして
医療材料のキット化に伴う経費削減への効果
部会で倫理学習会を行ったことに対するスタッフの理解度と今後の課題について

(2)講演会活動等(VI-7頁参照)

講演名
インシデント報告から考える輸血療法の安全性確保 病棟の立場から

(3)著作・論文、寄稿等(VI-8頁参照)

題名
「臨床血液看護師の役割ー臨床検査技師との関わりを中心にー」

看護育成課

看護長　四方田寿子

1. 任務、役割

看護育成課の役割は、人材の確保と育成、キャリアアップ支援と考えています。

そして、私たちのビジョンは、民医連の看護の継承する事と、一人ひとりの看護観を実現する事を後押しすることだと思っています。

2. 体制　3名

職種	
助産師	1名
看護師	2名

3. 活動と実績

(1)キャリア1

県連キャリアアップ委員会のもと、教育センターとしての機能を有し、教育要項に沿って中南部・北部・西部サポートセンターと連携しながら看護職員の育成を支援しています。

①卒後1年目

コロナ禍での研修となり、集合研修が6月までは開催できなかったため、OJT中心で技術研修を受け、その後は少人数、同内容複数回の開催、事前学習、感染対策等、工夫しながら集合研修が行われ10月以降はシミュレーション研修・フィールドワーク研修を実践するにあたり、様々なワークショップデザイン（ホワイトボードミーティング、ワールドカフェ等）を用いて企画し、職場での実践能力を育てる機会となりました。

②卒後2・3年目

指導者共に事前学習に力を入れ、患者の権利章典や保健予防活動、健康の社会的決定要因を理解し、社会と健康がつながっている事に気づき、患者の抱える問題は、個人の問題・自己責任だけではない事を3年間の研修で学びました。

(2)中途入職看護職への支援

病院見学者39名には病院の特徴や全体の雰囲気を伝え、入職者が定着する様に部門との橋渡しを中心に、1ヶ月面接まで行う手順が定着しました。

(3)キャリア2

①副主任研修

業務管理とナラティブアプローチ・キャリアデザインを考える研修を3回シリーズで企画し、コロナ禍で感じた問題意識を話し合うことができました。

②卒後4年目

24名が参加し、キャリアデザインを考えるために、ナラティブを取り入れた研修を企画しました。

(4)看護学生への関わり

①看護学生実習受け入れ状況

コロナ禍のため実習は半日単位で感染対策を重視しながら受け入れました。

学校（県内・県外）	学校数	実人数
専門学校	1	45名
大学	4	71名
その他　助産専攻	2	6名

②就職説明会（後）インターンシップ会場参加・オンライン参加（看護学生委員会と協賛）

部門内で受け入れは感染上実施できず、会議室等で先輩看護師と業務内容や実践している看護についてスライドを用いて説明することで、職場環境の雰囲気を知るきっかけになり将来の選択を考える事につながりました。

学校（県内・県外）	実人数
専門学校・大学　保健師	21名
専門学校・大学　助産師	1名
専門学校・大学　看護師	65名

※2020年7月25日～2021年3月29日

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1)学術・研究等の発表（Ⅵ-4頁参照）

演題名
看護部　卒後4年目フォローアップ研修の成果と今後の課題

看護サポート

主任 高田千春

1. 任務、役割

看護業務支援として安全で快適な療養環境整備を看護師指導のもと、日々の業務を遂行します。また看護部門のメンバーとして、年間計画に基づき、職員の力量向上や能力開発に努めています。

2. 体制 46名

職種	
看護助手(常勤)	8名
看護助手(非常勤)	38名

3. 活動と実績等

(1)医療安全学習(車椅子移乗移動介・食事介助・口腔ケア)
(2)感染対策学習(手指衛生とPPEの着脱)
(3)BLS一学習会
(4)感染症の基礎知識(インフルエンザ・新型コロナウィルス)
(5)生活習慣病学習会

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1)学術・研究等の発表(Ⅵ-4頁参照)

演題名
看護サポートの新型コロナウィルス感染症への対応策

薬剤科

部責主任 吉田 卓司

1. 任務、役割

(1)今年は外来における術前外来を開始しました。引き続き手術室での麻薬、医薬品の使用、払い出し、在庫管理の業務に関わってきました。その他に、さらなるカルテの記録の改善、危険薬や注意を要する薬剤の安全管理の向上の取り組みを進めてきました。
(2)引き続きキャンサーボードに分担して参加し、レジメンの検討、作成、個々の投与設計などに積極的に関わり、がん患者指導管理料ハの算定に必要な業務本格的に進められ、的確で安全ながん診療に参画してきました。
(3)ICT、がん化学療法、NST、緩和、各診療科チームなどにも積極的に関与、病棟会議、病棟朝会への参加を進め、チームによる医療の質向上に努めてきました。

2. 体制 29名

職種	
薬剤師	26名 (うち、非常勤1名)
薬剤助手	1名
事務総合職	1名
事務スタッフ	1名

＜資格取得＞
認定実務実習指導薬剤師、日本病院薬剤師会生涯研修認定薬剤師、日本薬剤師研修センター認定薬剤師、外来がん治療認定薬剤師、※栄養サポートチーム専門療法士、抗菌化学療法認定薬剤師、緩和薬物療法認定薬剤師、糖尿病療養指導士、スポーツファーマシスト、診療情報管理士、埼玉県肝炎コーディネーター

3. 概要、特徴、特色

(1)採用医薬品数 1,430
新規採用医薬品数 132品目
医薬品廃棄率 0.186%(2019年は0.222%)
(2)外来院内処方箋枚数 2,852枚
院外発行率 平均98.0%
入院処方箋枚数 51,621枚
注射処方総数(Rp) 312,967件
注射セット件数(Rp) 246,733件
注射セット率(Rp) 78.84%

3)薬剤管理指導業務 他
①入院服薬指導実人数 8,780人
（指導回数加算無含む 15,045回）
②退院時薬剤管理指導数 4,105人
③病棟薬剤業務実施加算 15,591件
④薬剤総合評価調整加算 100点 416件、150点
⑤退院時薬剤情報連携加算290件
(4)菌調剤件数
①TPN無菌調製件数 599件
②外来化学療法件数 1,338件
③入院化学療法件数 241件
④無菌製剤処理(細胞毒性)件数 1,055件
⑤携帯型ディスポーザブル混注件数 15件
⑥院内製剤 37種に対応
(5)がん患者指導管理料ハ 171件
がん化学療法レジメン管理数 186件
（新規作成13件 改定6件 削除0件）
(6)TDM 105件
(7)DI業務
①質疑応答 132件
②DIニュース 13回発行(№609～№620、号外)
③一般使用成績調査2 副作用詳細調査 5例
(8)安全管理業務
①副作用報告 全日本民医連 22件、厚労省(PMDA) 30件
②医薬品副作用被害救済制度 申請7件
③プレアボイド報告 418件、日本病院薬剤師会へ報告30件
④中毒対応件数 50件
(9)委員会・チーム会議
①薬事委員会(V-21頁参照)
②抗菌薬適正使用支援チーム(V-9頁参照)

4. 教育、研修、研究活動

(1)学術・研究等の発表(VI-6頁参照)

演題名
部門システム(錠剤分包機)の設定見直しによる業務効率化の実践
コロナ禍での職員確保の取り組み
新型コロナウイルス感染症に関わる薬剤師の取り組み

(2)学会参加

・第50回関東ブロック学術大会 10/31～11/1
・第40回医療情報学連合大会 11/18～19
・第42回日本病院薬剤師会 近畿学術大会 1/30～31
・日本臨床腫瘍薬学学術大会 3/6～7

検査科

科長 金泉恵美子

1. 任務、役割

(1)医療情勢の変化に迅速に対応できる検査体制築き、早期治療へ繋がる検査を実施する
(2)適正な検査が行えるよう院内への情報提供をするまた、安全に検査が実施されるよう働きかける

2. 体制 29名

職種		
臨床検査技師	29名	（非常勤6名含む）

＜専門資格＞

細胞検査士	3名
超音波検査士(消化器)	4名
超音波検査士(表在)	3名
超音波検査士(心臓)	2名
認定血液検査技師	2名
認定病理検査技師	1名

3. 活動と実績等

(1)新型コロナ感染症に対する検査体制強化として、抗原定量検査およびPCR検査を導入しました。検査開始にあたり、それぞれに安全キャビネットも導入して職員の安全性にも配慮しました。
(2)生理検査システムを更新して脳波波形が電子データで管理できるようになりました。
(3)法人内診療所および施設に対して検査支援を行いました。

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1)学術・研究等の発表(VI-4頁、VI-6頁参照)

演題名
乳癌診断における免疫染色のまとめ
マクロ CK による CK-MB 高値の 1 例
低 Na 血症を合併した脱水により尿沈渣所見で多数の円柱が認められた症例について

放射線画像診断科

放射線画像診断科 松本 茂

1. 任務、役割

一般撮影装置、マンモグラフィ撮影装置、X線TV装置、CT装置、MRI装置、超音波装置、骨密度測定装置を有し、外来、入院、健診の検査に携わっています。

2. 体制 30名

職種	
診療放射線技師	常勤25名
	非常勤1名
事務	非常勤4名

3. 概要、特徴、特色

(1)特徴

各診療科から依頼される各種検査および健診を中心に業務を行っています。画像を提供するだけでなく、診療放射線技師として医師による画像診断の補助に積極的に関わることを目指し、CT、超音波検査、上下消化管検査では技師コメントを読影レポートに記載しています。また、画像診断の結果が確実に診療に活かされるよう放射線技師が読影レポートの内容と受診状況を確認し、必要に応じて主治医に報告するフォロー体制を確立し、毎日の業務としています。

(2)施設取得認定

・医療被ばく低減施設認定
・マンモグラフィ検診施設画像認定

(3)技師取得認定

認定・資格	人数
放射線管理士	4名
放射線機器管理士	2名
検診マンモグラフィ撮影診療放射線技師	5名
超音波検査士(消化器)	1名
超音波検査士(体表臓器)	1名
乳腺超音波検査認定技師	2名
胃がん検診専門技師	1名
胃がんX線検診技術部門B資格	2名
胃がんX線検診読影部門B資格	2名
X線CT認定技師	3名

(4)実績(2020年4月～2021年3月)

検査名	検査数
一般撮影	44,015
ポータブル撮影	10,496
乳房X線撮影	2,354
骨塩定量測定	1,493
CT	17,876
MRI	7,205
X線TV	2,437
血管造影	474
超音波	5,644

4. 今後の展望・次年度に向けて

(1)放射線画像診断科症例発表会をはじめモダリティごとの症例検討会を開催し、読影知識向上に取り組んでいきます。
(2)各検査の読影フォローを継続的に行い検査結果が確実に診療に活かされるように取り組んでいきます。
(3)医療被ばく低減認定施設として、医療被ばくの適正化、病院職員への教育、医療被ばく相談に取り組んでいきます。

リハビリテーション技術科

科長　吉田知行

1. 病棟及び外来におけるリハビリテーションの機能と役割

医師の指示のもと理学療法・作業療法・言語療法・摂食機能療法・口腔ケアを実施し、患者様、ご家族様を中心に、医師、コ・メディカル、ケアマネージャーなどと協力し、社会復帰を目指します。

(1)回復期病棟

急性期治療が終了した回復期の患者様に対しリハビリテーションを実施します。質の高い生活が行えるよう、その方にあったリハビリテーションを提供します。

(2)整形外科病棟

入院直後より退院後の生活を想定し、退院後も獲得した能力が維持できるようリハビリテーションを提供します。

(3)内科病棟

急性期の治療中及び治療後の患者様に対しリハビリテーションを実施します。廃用症候群などの二次的合併症の予防を行います。

(4)外科病棟

手術前後の患者様に対しリハビリテーションを実施します。術前呼吸リハや術後の廃用症候群などの二次的合併症の予防など行います。

(5)緩和ケア病棟

患者様・ご家族様の希望をかなえられるようリハビリテーションを提供します。

(6)外来

在宅生活を送る上での疑問や工夫などを常に確認しながらリハビリテーションを提供します。

2. 体制　66 名

理学療法士　33名
作業療法士　22名
言語聴覚士　8名
歯科衛生士　2名
事務総合職　1名

3. 活動と実績等

(1)一般病棟

・リハビリ介入率　54.6%
・入院3日以内介入率　74.6%
・入院7日以内介入率　95.2%

(2)回復期リハビリテーション病棟

・実績指数　51.2
・患者一人当たり1日提供単位数　5.9単位

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1)臨床実習指導者講習会参加

(2)学術・研究等の発表(Ⅵ-4頁、Ⅵ-6頁参照)

演題名
リハ栄養の評価項目[FIM運動項目・体重・BMI]と舌圧の間に関係があるのか
臨床指導による若手療法士の技術向上の取り組み(主に回復期病棟において)
当院整形外科病棟における病棟リハビリの取り組みについて
緩和ケア病棟でのリハビリの取り組み
精神科デイケア　女性限定デイケア開設後の経過と活動報告
人工股関節全置換術後早期杖歩行獲得因子の検討
2020年度リハビリテーション技術科における感染対策の取り組みについて
医療の質の向上につながった中堅スタッフの取り組み
HCU人工呼吸器患者様に対する他職種連携の取り組み～看護師リハビリの導入～
B病棟における病棟リハビリの取り組みについて
C病棟でのリハビリの取り組み
E病棟人工呼吸器患者様に対する他職種連携の取り組み～看護師リハビリの導入～

食養科

科長 廣澤教子

1. 任務、役割

食を通して「身も心も養う」という理念に基づき、入院患者様へ安心・安全な食事提供を行うと共に、食生活相談やチーム医療の中で患者様の栄養管理のための役割を発揮しています。外来患者様へは個別食生活相談や保健指導、各種教室などを行い、地域では在宅食生活相談や健康班会・料理教室、各世代ステージに合わせた食生活支援等、各種教室を行っています。また、地域の院所と栄養の情報を共有できるよう栄養情報提供書の作成など、地域包括ケアの取り組みも行っています。

2. 体制 51名

職種		
管理栄養士	17名	(うち非常勤職員4名)
栄養士	1名	
調理師	16名	(うち非常勤職員3名)
非常勤調理員	16名	
非常勤事務	1名	

3. 概要、特徴、特色

(1)実績

外来食事相談件数	2,566件(月平均214件)
入院食事相談件数	2,229件(月平均186件)
集団食事相談件数	52(月平均4.3件)
在宅食事相談件数	2件
特定保健指導件数	192件
入院患者食数	250,054食(月平均 20,838食)
選択メニュー数	25,347食(月平均2,112食)
特別食加算の割合	月平均 40.2%
1食あたり食単価	月平均 303円

(2)活動内容

①NST回診 週1回
②褥瘡回診 週1回
③緩和回診 週1回
④アレルギー外来 週3回
⑤乳児健診 週1回
⑥禁煙外来 週1回
⑦糖尿病集団指導外来(はじめ外来) 週1回
⑧巣ごもりカフェ(産婦のサポート)月1回
⑨各種教室(肝臓病・呼吸器・介護者等)

(3)給食システム

安心、安全な食事を提供するために、ニュークックチルシステムを導入し、IH再加熱配膳カートを使用して食事を提供しています。

4. レストラン虹の森

病院直営のレストランとして、外来患者様・組合員さんなどへの食事・軽食等の提供や、福利厚生の一環として夜勤者・当直者の朝食・夕食の提供をしています。また、『埼玉県健康づくり協力店(注1)』として、地域の健康づくりも担っています。
営業時間 7:30～15:00

(1)体制 14名

職種		
栄養士	1名	(左記栄養士が兼務)
調理師	1名	(左記調理師が兼務)
非常勤職員	12名	

(2)運営会議

①体制 7名(うち組合員3名)
②年間開催数 12回(毎週第3火曜日)

5. 今後の展望・次年度に向けて

(1)さらに安心・安全でおいしい食事が提供できるよう、嗜好調査やミールラウンドなどで患者様のニーズをつかみ、献立に反映させていきます。
(2)新献立の導入や新しいスタイルでの選択メニュー実施など、患者様の満足度向上のための取り組みを行います。
(3)栄養アセスメントからの早期介入で絶食期間を減らし、低栄養状態のリスクを改善していきます。
(4)加算件数や食生活相談件数を増やす一方で、無駄をなくして給食材料費を削減し、経営に貢献します。
(5)新厨房と仮設厨房の稼働に向けて、厨房機器の選定や給食システムの決定などの準備を行います。
(6)新入職員、経験年数の少ない職員に対して、教育訓練を進め、民医連の職員として力を発揮できるようにします。

(注1)『埼玉県健康づくり協力店』とは、埼玉県が管理する健康増進を目的とした取組みのことで、一定の項目を満たした場合に認定されるお店です。

ME科

科長　岡本雪子

1. 任務、役割

(1)安心して使用できる医療機器の管理をします。

医療機器の専門職として点検・修理等、ME機器管理を通して安全性、信頼性の高い医療機器の提供をします。

(2)医療機器に関する事故ゼロを目指します。

予防保全やスタッフへの教育により医療機器に関連の事故を未然に防ぎ、機器関連の事故ゼロを目指します。

(3)外来維持透析だけでなくCRRT、アフェレシス療法などを行ない、24時間体制で患者の命を守ります。

(4)在宅療養をされる患者様へ支援します。

在宅療養される患者様やご家族へ装置の使用方法の説明を行い安心して療養生活が送れるよう支援します。

2. 体制　12 名

職種
臨床工学技士　　12名

＜専門資格＞	人数
透析技術認定士	4名
透析技能2級	1名
3学会合同呼吸療法認定士	3名
第2種ME技術者	10名
医療機器情報コミュニケーター(MDIC)	1名

3. 2020 年度ME科月報

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
MEによる修理件数	6	38	25	27	28	22	20	13	18	24	6	9	236
メーカーによる修理件数	13	4	6	15	15	6	18	12	14	7	10	5	125
職員の不注意による機器破損件数	4	0	2	0	1	1	0	0	0	0	0	0	8
装置の不具合による事故件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
人工呼吸器(NPPV含)貸出件数	21	14	33	10	18	17	12	19	17	17	21	28	227
HOT指導件数	8	9	4	7	5	4	9	9	5	9	6	6	81
CPAP指導件数	3	1	1	2	2	1	1	3	1	1	2	2	20
在宅人工呼吸器指導件数	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0	1	1	5
その他ME機器指導件数	1	0	0	0	0	1	0	1	0	0	1	0	4
ペースメーカ新規導入件数	0	0	1	0	0	1	2	2	3	3	0	2	14
ペースメーカ交換件数	1	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	1	5
自己血回収装置操作件数	1	0	1	0	2	0	0	1	0	0	0	0	5
神経モニタリング操作件数	1	1	3	2	5	2	3	2	5	5	4	3	36

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1)学術・研究等の発表(Ⅵ-4頁参照)

演題名
透析室における新型コロナウイルス感染症対策

環境管理課

課長 小野秀敏

1. 任務、役割

(1)院内の施設設備管理、警備業務、清掃業務、バス運行管理業務を各委託業者と協力しながら行っています。

(2)主な資格:ボイラー技士1級・2級、エネルギー管理員、危険物取扱者(乙4類)、大気関係公害防止主任者・水質関係公害防止主任者・高圧ガス製造保安責任者(液化酸素)甲種防火管理者、甲種防災管理者、建築物環境衛生管理技術者(ビル管理士)、第2種電気工事士。

2. 体制 3名

職種	
臨床工学技士	1名
事務総合職	1名
ボイラー技士	1名
委託業者	施設:明新メンテナンス株式会社
	清掃:株式会社 ボイス
	警備:豊国警備保障株式会社
	バス:株式会社 エム・ビー

3. 活動と実績等

エネルギー使用量		前年比
電気	5,350,924kwh	100.7%
ガス	516,165㎥	98.7%
水	61,636㎥	92.8%
CO_2排出量	3,739t	100.2%

4. 今後の展望・次年度に向けて

(1)老朽化した施設設備の更新計画の立案と実施します。

(2)エネルギー供給会社の検討、クリーンエネルギーの検討による環境負荷軽減します。

(3)非常災害マニュアル、BCPマニュアルの改訂等、災害対策を強化し、災害に強い病院づくりをすすめます。

医局事務課

部責主任 藤元純司

1. 任務、役割

医局長を補佐し、医局運営課題を推進するため他職種と協力してよりよい医療が提供できるよう支援します。初期臨床研修医および後期研修医(専攻医)の対応、プログラムの管理と運営を行っています。

2. 体制 5名

職種	
事務総合職	4名
非常勤職員	1名

3. 活動と実績等

(1)医局目標に対して、医局運営委員会や月例医局会議で進捗確認を行い、達成に向けて取り組みました。

(2)初期研修医、専攻医、既卒医師、大学派遣などの非常勤医師に対し、医局のオリエンテーション、診療支援(電子カルテ操作説明)を行いました。

(3)初期研修委員会・専門研修委員会のメンバーを中心に研修全体の管理を行い、研修修了に向けた支援(研修システムへの登録・確認)を行いました。

(4)基幹病院、関連病院等の更新申請や年次報告の作成を行いました。

(5)後継者の確保・育成に対して、初期研修医8名、専攻医6名(連携含む)、既卒医師3名の入職が決まりました。

4. 今後の展望・次年度に向けて

(1)医局を中心に病院全体で後継者の確保・育成に取り 組みます。全職員が専門研修プログラムへの理解を深めてもらえるよう、医局事務の役割を発揮します。

(2)初期研修医、専攻医や既卒医師に対してのオリエンテーションやレクチャーを計画的に行うような仕組みを構築します。また他職種と定期的に情報共有ができるシステムを検討します。

(3)医師の働き方改革に向けて、検討を進めます。

(4)JCEPの受審を通して、医師が働きやすい環境づくり・業務整備・医療の質向上を目指します。

入院医事課

部責主任　吉岡洋輝

1. 任務、役割

病院の医療収入の半分以上を入院診療で占める中、入院で行われる医療行為を正確に、かつ漏れなくお金に変える事は病院の経営にも大きく関ってきます。

私たち入院医事課では、保険請求業務をはじめ、病棟運営のためのデータ作成・分析、医師アシスト業務といった多岐にわたる業務を担い、医師・看護師が治療・看護に集中できる環境をつくり、患者様への質の高い医療の提供へつなげていきたいと考えています。

2. 体制　12 名

職種	
事務総合職	7名
事務スタッフ	2名
非常勤職員	3名

3. 活動と実績等

(1)入院医事課の病院での役割

①入院患者が行われる医療行為をしっかりと収入につなげること。

②医療の質や接遇の質を維持するために国家資格を持つ医師をはじめとした集団をマネジメントすること。

③データをもとに各病棟の課題を洗い出し改善に向けた提案を行うこと。

(2)活動

①入院患者の早期退院の促進

②加算算定率向上に向けた取り組み
（救急医療管理加算、入退院支援加算等）

③職員が働きやすい職場づくり
（超勤削減、有給休暇の取得推進）

④統計システムを活用した病棟への情報提供
（MEDI ターゲット、DWH等）

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1)学術・研究等の発表(Ⅵ-4頁参照)

演題名
働きやすい職場をめざして　入院医事課の取り組み

外来医事課

課長　田中紗代

1. 任務、役割

(1)急性期病院として機能発揮するため外来診療における課題抽出を行い、患者・病院職員にとって利用しやすい、働きやすい環境を整備します。

(2)多職種と連携し質の高いケアを提供できる診療科運営を行います。

(3)医師・看護師および関連部門と連携し、予算達成に向けた診療科マネジメントを行います。

(4)多職種と連携し正確な保険請求を行います。

(5)事務総合職としての職務への理解を深め、お互いに学び合い育ち合う組織作りを目指します。

2. 体制　52 名

職種	
事務総合職	16名
事務スタッフ	4名
非常勤職員	22名
当直事務	10名

3. 活動と実績等

外来医事課の病院での役割は、①病院で行われる医療行為をしっかりと収入につなげること、②医療の質や接遇の質を維持するために国家資格を持つ医師をはじめとした集団をマネジメント（会議運営・ファシリテーター）することなどがあります。

(1)内科チーム(17名:常勤8、スタッフ職員1、非常勤8)

①内科急患外来
- 内科急患外来患者受け入れ、救急対応、転送時の対応、医師補助業務。

②専門外来
- 糖尿病、呼吸器、循環器等、内科疾患の専門領域を扱う。
- 患者受入れ、予約管理、検査説明および案内。
- チーム会議の運営。

③内視鏡業務
- 内視鏡の予約管理、チーム運営。

(2)外科チーム(18名:常勤6、スタッフ職員2、非常勤10)

①皮膚科、耳鼻咽喉科、眼科、外科、小児科、整形外科、泌尿器科、婦人科
- 各診療科の受付業務、予約管理、検査説明および案内。
- 各診療科会議の運営。

(3)会計チーム(9名:常勤2、スタッフ職員2、非常勤5)

①専門内科、婦人科、中央会計における患者窓口負担の計算

医療社会事業課

課長 竹本耕造

1. 体制 12名

職種		
社会福祉士	10名	
精神保健福祉士	2名	社会福祉士との重複取得者1名

2. 活動と実績等

(1)入退院支援

①新型コロナウィルス感染症の予防のために、家屋調査は年度途中から中止しました。代わりに、Eメール等を活用し、ご家族やケアマネから自宅の写真を提供いただいて、自宅環境の把握が出来るようにしました。

②同じく感染症予防の観点で、療養支援会議の開催も必要最低限の回数と人数で行うようにしたので、件数が減少しましたが、WEB の環境が整っている事業所とはオンラインでの療養支援会議を行いました。

(2)地域連携

①上記と同じ理由で緩和ケア病棟地域連携カンファレンスや地域の医療・介護事業所の訪問は行いませんでした。

②社会保険労務士と連携し、障害年金相談会を開始しました。延べ10件以上の相談に対応し、障害年金受給に繋がった事例も生まれました。

(3)患者の受療権を守る取り組み

①新型コロナウィルス関連での生活問題についても対応できるよう、国や厚労省通知、その他の社会保障・社会資源情報の整理を行い、幅広い対応ができるようにしました。

②数年来の取り組みとして、川口市職員との懇談で国保一部負担金減免制度の必要性やを訴えました。県職員に向けては国保一部負担金減免制度の各市町村への周知や国保税滞納者に対する徴収を個々の事情に応じて対応すること、課の壁を越えて県民の生活課題解決の為に支援を行うこと等を求めました。

③川口社会保障協議会開催の川口困りごと相談会やクルド人の人権を守る実行委員会主催の外国人健康相談会に参加し、主に医療問題についての相談対応をしました。

④外国人への対応について主に「難民支援協会」「北関東外国人相談会」等と連携し、当院の無料低額診療事業も活用しながら日本の社会保障制度が利用できない方が医療を受けられるよう対応をしました。

⑤ホームレスの方の生活保護申請や無保険の方の保険加入、無料低額診療事業の活用を通じて、経済的に困窮している方が受診できるようにしました。

⑥フードバンク・フードドライブの取り組みを活用し、生活困窮者への食料提供を行いました。

⑦全日本民医連の「経済的事由による手遅れ死亡事例調査」に協力し、4件の事例について報告しました。

3. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1)学術・研究等の発表(VI-4頁参照)

演題名
無料低額診療事業から見えてきたこと ～過去3年分の事例から～
2020年度埼玉協同病院第1回・第2回倫理委員会報告
リスクマネージャー会議識別チームの取り組みのまとめ

地域連携課

部責主任 伊藤剛

１．任務、役割

1. 地域医療機関と協力して、患者様の望む医療を提供します。地域全体でより質の高い継続性のある医療を患者様に提供するために、地域医療機関との連携を強化し、当院と地域の医療機関とをつなぐ役割を果たします。
2. 当院の機能を充分に発揮できるように努めます。私達は地域医療機関や患者様からの依頼・問い合わせへの対応能力を強化し、外来・入院・救急医療に貢献し、地域に選ばれる病院を目指します。
3. 誇れる医療活動を伝えます。

当院の医療活動を地域に伝え、誰もが安心して利用できる病院情報の発信を行います。

4. 患者様の医療、健康を地域全体で守るために、安心してかかれる地域の医療機関との信頼関係を構築するお手伝いをします。
5. 訪問活動・連携会議を通じて、地域医療機関と『顔の見えるネットワーク』を構築します。

２．体制　30 名

職種	
事務総合職	6名
事務スタッフ	2名
非常勤職員	22名

３．活動と実績等

■地域連携チーム（5名：常勤3、スタッフ職員1、非常勤1）

(1) 地域連携（院内業務）

①地域医療機関から紹介される患者様の依頼・ニーズに応えるべく、受診・入院・検査において各職種と連携し、迅速かつ安心と満足の医療が提供できるように調整を図る。

②紹介患者様に関する診療情報提供書や報告書の管理を行い、紹介元医療機関へ迅速かつ的確な情報提供を行う。

③当院で完結できない医療に関して、安心して治療が継続できるように専門病院への受診調整や、安定した患者様へ逆紹介をスムーズに進める。

④開業医名簿アクセスを用いて、地域医療機関の情報をタイムリーに集積・更新し、全職員へ情報共有できるようにする。

⑤紹介率（数）・逆紹介率（数）を管理・分析し、当院の機能・医療水準を図る指標とし、今後の戦略を提案する。

(2) 地域連携（院外連携）

①開放型病床登録医との「共同指導」の運営管理を行い、新規登録医の拡大を図る。

②地域医療懇談会の運営・事務局を行う。

③地域医療機関へ、書類やデータなどの定期訪問を通じて、コミュニケーションを向上し、信頼関係の構築を図る。

④広報活動を通し、当院の診療体制や医療活動・採用薬の変更を知らせる。

⑤病病連携の強化の為に、近隣病院の地域連携の会や、地域連携クリニカルパスの協議会へ参加する。

(3) 患者様へのサービス

①当院の機能だけでなく、地域医療機関の情報を提供し、患者様の選択肢・自己決定できる支援を行う。

②休診・時間外対応やベッド満床時、患者様の病状やニーズに沿った地域の医療機関を案内する。

③患者様の受療権を守り、通いやすく治療中断しない医療サービスを提供する。

■受付チーム（13名：常勤2、非常勤11）

①初診再診の受付，保険証確認、見舞い客の案内、文書申込み、各種お問い合わせ等。

②総合案内業務。

③紹介専用窓口。

④収納業務。

■入院受付チーム（4名：常勤1、スタッフ職員2、非常勤1）

①予約入院業務。

②病床運営に関係するデータの管理や分析、地域への発信。

③埼玉県広域災害救急医療情報システムへの発信。夕方の各病棟の空床状況の発信。

■電話交換チーム（7名：非常勤7）

①代表電話交換。

②各診療科電話予約、検査予約。

システム管理課

課長 大野弘文

1. 任務、役割

(1)情報システムの適切な運用を行います。
(2)医療の安全性に寄与し、診断治療をバックアップできる情報システムを提供しています。
(3)医療経営情報の把握できるシステムを開発し、医療の質の向上に貢献します。
(4)資質の向上に努め、法令遵守をすすめます。

2. 体制 3名

職種	
事務総合職	2名
管理栄養士	1名

3. 概要、特徴、特色

(1)実績

次期電子カルテが NEC MegaOak iS に決まりました。本来は2021年度に更新予定でしたが、諸般の事情から2023年に更新となりました。

画像システムと心電図システムが更新となり、それに伴いパソコンの一部機能アップが必要となりました。全部門の協力により無事に更新できました。

(2)電子カルテ委員会

電子カルテ委員会と連携し、次期電子カルテ選定の事務局機能を担っています。

4. 学術・研究、講演、研究会等の記録

(1)外部研修
①電子カルテユーザーフォーラム
②「ニューノーマル時代の情報インフラ −求められる旧来ネットワークからの変革−」(オンライン)アライドテレシス

5. 今後の展望・次年度に向けて

2021年度は次期病院の通信環境構築に向けて検討が本格化します。2020年を境に求められる通信環境が大きく変わりました。要望に対応できる仕様を決めていきたいと思います。

医師アシスト課

課長 菅原千明

1. 任務、役割

医師が専門的な知識・技能を生かして患者に安全・安心な医療を提供するためには、各職種の適切な業務分担と連携が必要です。医師アシスト課では医師事務作業補助者が25名在籍し、医師の事務作業を支援することによって医師が診療に専念できる環境を提供しています。

2. 体制 25名

職種	
事務(常勤)	4名
事務(非常勤)	21名

3. 活動と実績等

(1)医師からの各種依頼・相談に応えられる体制を構築しています。

内科、整形外科の診療支援や診察陪席での代行入力等により、診療中の医師の依頼に応えられる医師事務作業補助者の配置を行いました。

(2)チーム医療への役割を担っています。

検査・手術情報の確認、クリニカルパスの適用、書類やデーター準備などを中心に、迅速な業務対応に努めました。

(3)医師事務作業補助者としての基礎能力である医学的知識と事務処理能力を向上に力を入れています。

短期と長期の育成課題を明確にしたキャリアパス、キャリアラダーをもとに、医師事務作業補助者のスキルアップに取り組みました。毎月の学習会、夕会時の学習会で知識の共有化を図りました。

(4)効率的で、精度の高い書類作成支援を行っています。

医師サマリーや診断書等、月間約900件の下書き業務を行いました。文書システム導入により書類完成までの期間短縮が可能となりました。

資材課

課長　小池綾一

1. 任務、役割

病院で使用する、医療材料・伝票類(印刷物)・事務用品などの購買業務を行っています。また、診療報酬改定や高額機器購入時には価格交渉を実施し費用削減を行い、ベンチマーク活用による価格低減を実施しております。

2. 体制　2名

職種	
事務総合職	2名

3. 活動と実績等

(1)診療報酬、償還価格引下げの影響率90%以上の回復。

①価格交渉団にて交渉会議3回
②3者面談1回にて価格交渉実施
（8月末病院・SPD・メーカー）
③個別交渉5回
（ストライカー・ジンマー・ソルブ・ユフ・フツロ）
④旧償還率90.91%→新償還率91.19%、回復率99.70%
⑤遡及額　法人計415,416円　うち当院396,132円
⑥消耗品のフライトフード1,536,000円/年間削減
⑦ストライカーバリュープログラムにて7,987,488円無償

(2)各部門のデットストック(6ヶ月以上の長期滞留品)を可視化し、費用軽減しました。

①長期滞留品削減進捗(全体)金額:2,430,381円→
2,005,289円 差額:▲4255092円。
②定数見直しにより適正定数(全体)。
品目数:5,214品目→　4,744品目　削減▲470品目
金額:22,414,433円→　19,792,398円
削減額▲2,622,035円

健康管理課

課長　渡部美代

1. 任務・役割

健康増進センターの運営を担当し、健康診断の予約から受診、結果表作成、健診後フォローを行っています。

2. 体制　22名

職種	
看護師	1名
事務総合職	4名
事務スタッフ	4名
非常勤職員	13名

3. 概要、特徴、特色

2020年度はコロナ渦であり、4月中旬から6月末まで健康診断を中止しました。7月からは密を避けるために人数を制限して再開しました。午後の健康診断を開始し、10月及び12月～3月は、2019年度を上回る実績となりましたが、年間を通じては約5,000人の受診者減となりました。

2020年度より、後期高齢者の問診票が、フレイルに着目した15項目に変わりました。フレイルが心配な方へ、医療生協のフレイル予防パンフレットを渡し、フレイルの早期発見、重症化予防に努めています(Ⅰ-5頁参照)。

4. 今後の展望・次年度に向けて

・質の向上及び精度管理をすすめます。
・受診者の要望に応えます。
・業務の効率化をすすめます。
・健診後フォローの充実を図ります。

組合員活動課

課長 熊倉正明

1. 任務、役割

組合員活動課は、住民の「健康で安心した暮らし」を実現していくために、医療生協の活動を知らせ、「参画」してもらい、全職員や他団体の協力のもと、社会に働きかけ、「地域まるごと健康づくり」を目指しています。

2. 体制 5名

職種	
事務総合職	3名
管理栄養士	1名
非常勤職員	1名

3. 地域担当

南部Aブロック（10支部）	木曽呂・東内野、神根東、道合・神戸、根岸、源左衛門、芝北、柳崎、芝南、伊刈・芝、芝西
南部Bブロック（7支部）	差間、戸塚中央、戸塚南、東川口、安行、安行慈林、新郷
東部地区（11支部）	草加、八潮、三郷、吉川、越谷、松伏、庄和、春日部中央、春日部北、春日部東、春日部南

4. 概要、特徴、特色

(1)「新型コロナに負けるな！プロジェクト」を立上げ
「午前(10時)体操　午後(15時)体操」
「お元気ですかテレフォン」
「フードドライブ」　の取組みを行いました。
(2)「医療・介護の応援増資」の取組みで、1万人の増資協力者が拡がりました。
(3)「埼玉協同病院リニューアル」「ケアステーションかしの木」建設」の建設委員会では、組合員との検討が始まりました。

5. 今後の展望・次年度に向けて

(1)フレイル予防に取り組みで地域の「健康づくり」「保健予防」に寄与します。
(2)組合員の「こまりごと相談対応ネットワーク」に取り組む事にします。
(3)すべての支部で「健康・安心ネットワーク」の作成に取り組みます。
(4)「埼玉協同病院リニューアル」「ケアステーションかしの木建設」を地域に伝え、多くの人に建設運動に参加してもらいます。

総務課

課長 我妻真巳子

1. 任務、役割

(1)総務課は、人事業務・福利厚生・経理・庶務・業務委託など、職員が働くために必要な環境や制度についてサポートしています。
①人事業務　職員の募集、契約実務(入職オリエンテーション)履歴書や免許証、職員名簿の管理を行い、給与関係では就労システムについての対応。
②庶務　院内の会議室やパソコンなどの貸出用物品管理、郵便物や宅配物の受付と仕分け、慶弔業務、夜勤勤務者職の手配など。
③福利厚生では、制服、看護師寮、保育所利用案内、職員駐車場調整、共済会、有給や特別休暇等の対応。
④経理業務、入出金管理、出資金集計。
⑤業務委託　売店、床屋、病室のテレビ、院内公衆電話、自動販売機、院内鑑賞用植物(エコロジーガーデン)、絵画展示物など
(2)職員にとって相談や確認がしやすく、広範な守備範囲と気軽さを目指しています。職員寮における相談、家族を健康保険の扶養に加入させる手続きや出資金の手続き、落とし物の問い合わせなど様々な用件で窓口に訪れる方への対応を行っています。
(3)障碍者雇用の方の業務サポートを行い、他部門と業務連携をしています。

2. 体制 5名

職種	
事務総合職	3名
事務スタッフ	1名
非常勤職員	2名

3. 概要、特徴、特色

(1)総括
①職員からの要望を聴きそれらを改善することで働きやすい環境づくりを行ってきました。
・環境・制度面の改善点を探る退職者からのアンケートを実施しました。
・更衣室の拡大と環境面での改善を行ってきました。
②就労システムの導入により「働き方改革」に対応し、超過勤務と有給休暇の管理が各部門でできるよう情報発信をしています。

③働くもののための法令や規則を学び、職員へ正しい情報を伝達するよう努めてきました。
・総務課発行の「通船堀」を年間 15 回発行してきました。
・総務課職員の力量アップを行うため、研修会やセミナーに参加してきました。研修会・セミナーの内容は部会で共有し、相談者に必要な情報が提供できるようにしてきました。

4. 今後の展望・次年度に向けて

病院のリニューアルに向けて総務課の在り方を検討します。
(1)退職者アンケートなど職員の働く環境や制度について要望を収集し、働きやすい職場づくりを目指します。
(2)各種書類の電子化を進めます。
(3)他部門と連携し、よりよい病院をつくります。

つくし保育所

主任　丸岡京子

1. 任務、役割

医療生協さいたまに勤務する職員のお子様を保育しています。産休明けから2歳児までを中心に0歳、1歳、2歳以上の3つのクラスに分け保育を行っています。夜間、休日、臨時保育、病児・病後児保育も行っています。よく遊び、よく食べ、よく眠る、を3本柱に心身ともに健やかに元気に過ごせる子どもを目指しています。

2. 体制　21 名

職種		
保育士	16名	(うち常勤職員4名)
保育助手	4名	
調理師	1名	

3. 概要、特徴、特色

(1)コロナ禍の中、自宅でも子育ての情報を聞くことができるように、SNSを利用し、赤ちゃん体操や子育てのアドバイスなどを地域に向け発信しました。多くの方に見ていただくことができました。
(2)利用者の子育て支援として子育て講座を2回実施しました。初めて男性を対象にした子育て講座を開催しました。子育てで困っていることや関わり方など、父親ならではの話で盛り上がり楽しい交流の場になりました。
2回目は保育所での子ども達の様子を動画にし、個々の成長の様子を保護者にみてもらいながら発達についての話をしました。子どもの成長を保護者と分かち合い、共有することができました。
(3)保育士としての専門性を高めるため、多様な発達や関わり方について、部内で学習会を実施しました。また日々の保育に反映できるように毎月、保育の振り返りと実践の確認をしました。
(4)コロナ感染症と感染対策について学び、手洗いやマスク、保育室や玩具の消毒など感染予防に力を注ぎました。
(5)実績
①在籍児数:26人
②臨時保育児実数:53人
(年間延べ数1,052人、月平均87人)
③夜間保育児実数:14人
(年間延べ数391人、月平均32人)

4. 今後の展望・次年度に向けて

(1)安全対策、感染症対策を強化して子どもの安全を守ります
(2)地域や職員のニーズに合わせた子育て支援を目指します。
(3)専門職としての力量アップを目指します。